

注) この RCT は日本東洋医学会 EBM 委員会がその質を保証したものではありません

1. 感染症 (ウイルス性肝炎を含む)

文献

中島修, 曾根美好. C 型慢性肝炎に対するインターフェロン・小柴胡湯併用療法 (第 1 報) - インターフェロンの副作用軽減作用-. *臨床と研究* 1993; 70: 2994-3002. 医中誌 Web ID: 1994049432

1. 目的

C 型慢性肝炎に対するインターフェロン・小柴胡湯併用療法におけるインターフェロンの副作用軽減作用の評価

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (封筒法) (RCT-envelope)

3. セッティング

国立大蔵病院 1 施設

4. 参加者

C 型慢性肝炎患者 48 名

5. 介入

Arm 1: インターフェロン α 600 万単位 2 週連投その後週 3 回+カネボウ小柴胡湯エキス 細粒 6g 分 3、24 名

Arm 2: インターフェロン単独、24 名

投与期間 12 カ月以上

6. 主なアウトカム評価項目

発熱などの自覚症状、血球数などの検査項目

7. 主な結果

発熱は、重症度、発現頻度とも Arm 1 で有意に低かった。治療開始 1 カ月における白血球減少は、Arm 1 で有意に抑制された。ほかの副作用発現には有意差を認めなかった。

8. 結論

小柴胡湯はインターフェロンの副作用軽減作用を有する可能性がある。

9. 漢方的考察

なし

10. 論文中の安全性評価

記載なし

11. Abstractor のコメント

本論文は、C 型慢性肝炎に対するインターフェロン・小柴胡湯併用療法の臨床試験に関する第 1 報ということで、副作用の発現に関する部分のみをまとめたものである。

「傷寒」にも用いられる小柴胡湯の臨床効果の一端が、「傷寒」に類似したインターフェロンの副作用を抑制するというかたちで示されたことは興味深い。

12. Abstractor and date

及川哲郎 2008.9.19, 2010.1.6